

3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における43項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表3-1 43項目（施策）の満足度ランキング

平均得点68.7点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	76.3	⇒	
2位	(2位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	75.6	⇒	
3位	(3位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	75.1	⇒	
4位	(6位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.3	➡	
5位	(4位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	73.0	⇨	
6位	(7位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	72.5	➡	
7位	(13位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	72.2	➡	
8位	(5位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	71.4	⇨	
8位	(11位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	71.4	➡	
10位	(15位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.9	➡	
11位	(10位)	基盤的取組	復興・創生の更なる推進	70.4	⇨	
12位	(9位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	70.3	⇨	
12位	(12位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	70.3	⇒	
12位	(8位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	70.3	⇨	
15位	(14位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	70.1	⇨	
16位	(30位)	基盤的取組	SDGs	69.8	↑	△
17位	(21位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	69.1	➡	
18位	(18位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	69.0	⇒	
19位	(23位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	68.8	➡	
20位	(16位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	68.7	⇨	
20位	(17位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	68.7	⇨	
22位	(20位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	68.6	⇨	
23位	(33位)	基盤的取組	DX推進	68.3	↑	△
24位	(22位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	68.2	⇨	
25位	(18位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	68.1	⇨	
26位	(27位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	68.0	➡	
26位	(29位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	68.0	➡	
28位	(26位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	67.9	⇨	
28位	(24位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	67.9	⇨	
30位	(35位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.4	➡	
31位	(24位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	67.2	⇨	
31位	(36位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.2	➡	
33位	(34位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	起業支援	66.9	➡	
34位	(30位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	66.5	⇨	
35位	(32位)	基盤的取組	行政経営	66.4	⇨	
36位	(28位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	66.0	⇨	
37位	(37位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	65.8	⇒	
38位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	65.7	➡	
39位	(37位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	65.0	⇨	
40位	(40位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	64.8	⇒	
41位	(41位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	62.6	⇒	
42位	(43位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	61.0	➡	
43位	(42位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	60.6	⇨	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表3-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」99人、「どちらかといえばよい」306人、
「どちらかといえば不満」99人、「不満」52人、「わからない」72人ですと、

$$\frac{99 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 306 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 99 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 52 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 72 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{556 \text{ 人}}$$

≒76.3

※平均得点=76.3点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「医療」については、病床数が全国平均を大きく上回るなど、市民のニーズを満たす医療を提供していること、また、「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から15年経過し、市民の認知度が高いことなどが、満足度につながっていると考えられます。

また、前年度調査に比べて大きく順位を上げたのは、「SDGs」「DX推進」「住環境」「防犯・交通安全・消費者対策」です。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「SDGs」では、郡山市は、2019年に内閣府から「SDGs未来都市」に選定されました。郡山市及び近隣の17市町村で構成する「こおりやま広域圏」全体で、SDGs達成に向けて取り組んでいます。

「DX推進」では、スマートフォン等の活用による「てのひらの上のデジタル市役所」を推進するため、行政手続きのオンライン化、証明書等発行手数料や施設使用料のキャッシュレス決済により市民の利便性向上を図っています。

「住環境」の項目のうち『公園』については、日常の維持管理とともに、利用者のニーズに合わせた施設の改修や整備を進めています。次に『生活道路』では、地元からの要望を的確に把握し、高齢者や障がい者等の円滑な移動に配慮するとともに、生活環境の利便性や安全性の向上のため効率的に改良・舗装工事を進めています。次に『上下水道』では、水道水の安全性を確保するため、適切な水質管理を行うとともに、給水管等老朽化した施設を計画的かつ効率的に更新しています。また、浸水被害の軽減を図るため、麓山調整池などの雨水貯留施設を整備したところであり、引き続き雨水幹線等の整備を進めます。

「防犯」では、公用車による青色回転灯パトロールや防犯パトロール用品を支給した団体による防犯パトロールの実施、「交通安全」では、各季の交通安全運動や交通安全教室の実施により、市民・関係団体との協働による安全安心のまちづくりの推進に努めています。

「消費者対策」としては、広報こおりやまやウェブサイトによる注意喚起をはじめ、出前講座、町内会等への啓発チラシの配布やこどもまつり等のイベントでの啓発により、トラブルの未然・再発の防止に努めています。

また、6分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「学び育む子どもたちの未来」の69.9点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の69.8点、「暮らしやすいまちの未来」の69.3点となっています。

表3-2 6分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	69.9
2位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	69.8
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.3
4位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	68.4
5位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	67.5
6位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	66.3

参考までに、過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表3-3 10年間の満足度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2023	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2022	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習

(2) これからの取組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における43項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表3-4 43項目（施策）の重要度ランキング

平均割合13.0%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(2位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	37.9	➡	
2位	(1位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	37.1	➡	
3位	(3位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	34.7	➡	
4位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	26.7	➡	
5位	(4位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	24.9	➡	
6位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	24.6	➡	
7位	(12位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	23.5	➡	
8位	(9位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	22.6	➡	
9位	(10位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	21.6	➡	
10位	(8位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	18.8	➡	
11位	(6位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	18.6	➡	
12位	(11位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	16.4	➡	
13位	(16位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	14.2	➡	
14位	(14位)	基盤的取組	SDGs	12.9	➡	
15位	(13位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	12.5	➡	
16位	(21位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	11.8	➡	
16位	(15位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	11.8	➡	
18位	(18位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	11.7	➡	
19位	(19位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	11.5	➡	
20位	(23位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	11.2	➡	
21位	(32位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	起業支援	10.4	⬆	△
21位	(20位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	10.4	➡	
23位	(24位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	10.3	➡	
24位	(17位)	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	9.9	➡	
25位	(21位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	9.6	➡	
26位	(25位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	9.5	➡	
26位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	9.5	➡	
28位	(26位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	9.3	➡	
29位	(29位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	8.2	➡	
30位	(34位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	8.0	➡	
31位	(29位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	7.7	➡	
32位	(33位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	7.6	➡	
33位	(28位)	基盤的取組	行政経営	7.3	➡	
34位	(31位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	6.0	➡	
35位	(35位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	5.5	➡	
36位	(36位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	4.9	➡	
37位	(38位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	3.9	➡	
37位	(39位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	3.9	➡	
39位	(41位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	3.3	➡	
40位	(37位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.2	➡	
41位	(40位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.8	➡	
42位	(42位)	基盤的取組	DX推進	2.5	➡	
43位	(43位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.9	➡	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※2：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「子育て」240人ですと、

$240 \text{ 人} \div 634 \text{ 人} \times 100\% \doteq 37.9$

※平均割合（回答率）=37.9%となります。

— 重要度の上位3つは、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」が上位となっています。

「子育て」については、急速に進む少子化や人口減少などへの関心の高まりに加え、本市は2022年7月に「全力で子育て応援中！」を宣言し、「子どもが安心して生まれ育つまち 郡山」として、「ベビーファースト」運動を推進していることなどから、各種団体や事業者など地域ぐるみでの子育て支援の取組みが広がったこともあり、重要度が高まっていると考えられます。

また、「10年間の重要度上位3項目」において、「高齢者福祉」は2014年度から、「雇用・就労」は2018年度から、ほぼ毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、前年度調査に比べて大きく順位を上げたのは、「起業支援」「防犯・交通安全・消費者対策」「乳幼児教育・家庭教育」です。

「起業支援」では、国が認定する「創業支援等事業計画」を策定し、起業・創業に関する各種事業に取り組んでいきます。また、民間の創業支援事業者と連携しながら、市内において起業・創業を目指す方を支援します。

「防犯・交通安全・消費者対策」については、全国的に高齢者による重大事故が連日報道され、市民の交通安全意識が高まるとともに、市内では小学生への声掛け事案が相次ぐなど、防犯に対する意識も高まり、重要度が高くなったと考えられます。

「乳幼児教育・家庭教育」では、『郡山市まちづくり基本指針』を基盤とし、SDGsやセーフコミュニティ、「郡山市子ども条例」や「連携中枢都市圏」など本市独自の視点等を取り入れた『第2期郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン』を策定し、すべての子どもの健やかな育ちと子育て中の保護者等を支援できるよう、様々な子育て支援施策を総合的かつ計画的に推進しています。

また、6分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」の18.6%となっており、重点的に取り組むべ

き分野といえます。次いで、「学び育む子どもたちの未来」の18.4%と続いています。

表3-5 6分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	18.6
2位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	18.4
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	14.2
4位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	11.4
5位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	9.6
6位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	6.9

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

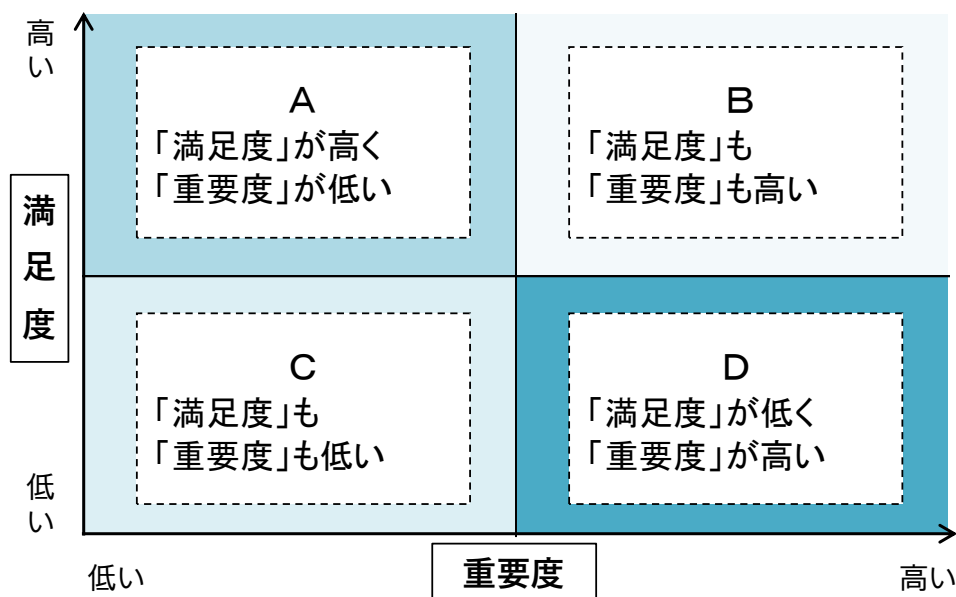
表3-6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2023	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2022	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出 29 頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出 33 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

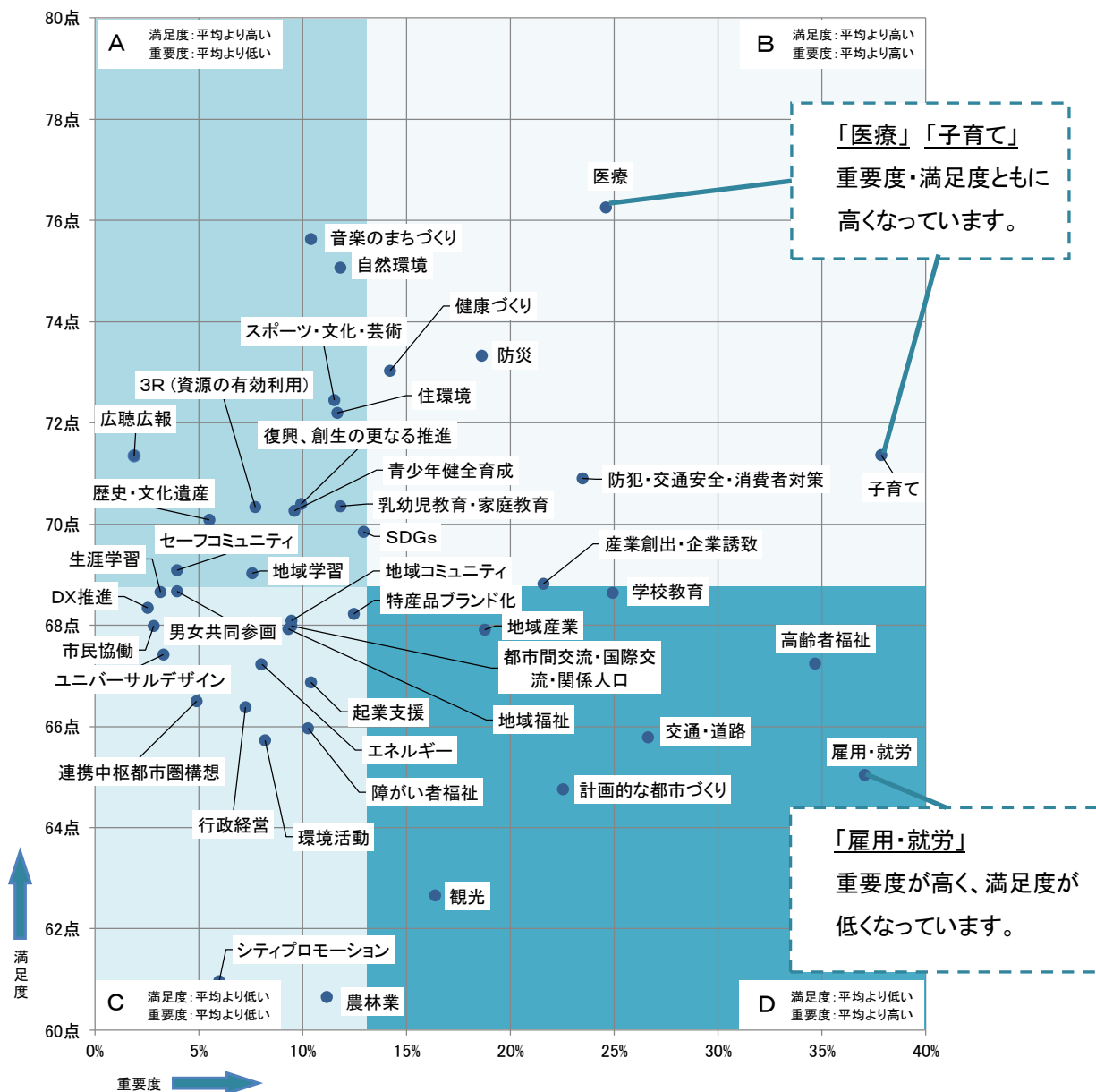
重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図3-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）



—— 「雇用・就労」に関して優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

平均得点をみると、『3. 産業創出・企業誘致』が 68.8 点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（60.6 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました。（表 3-7 参照）

図 3-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

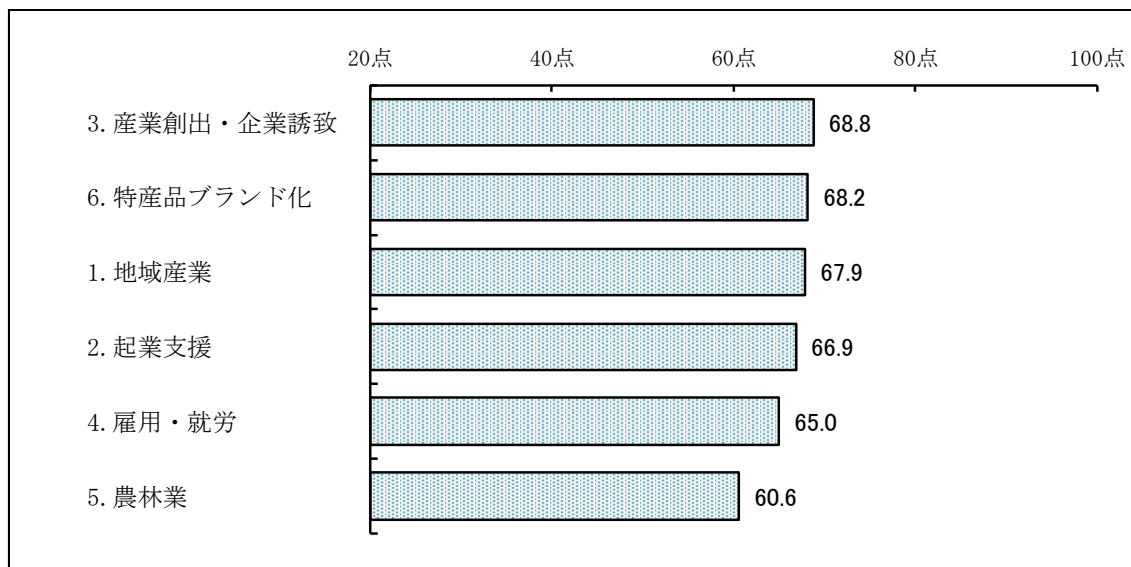


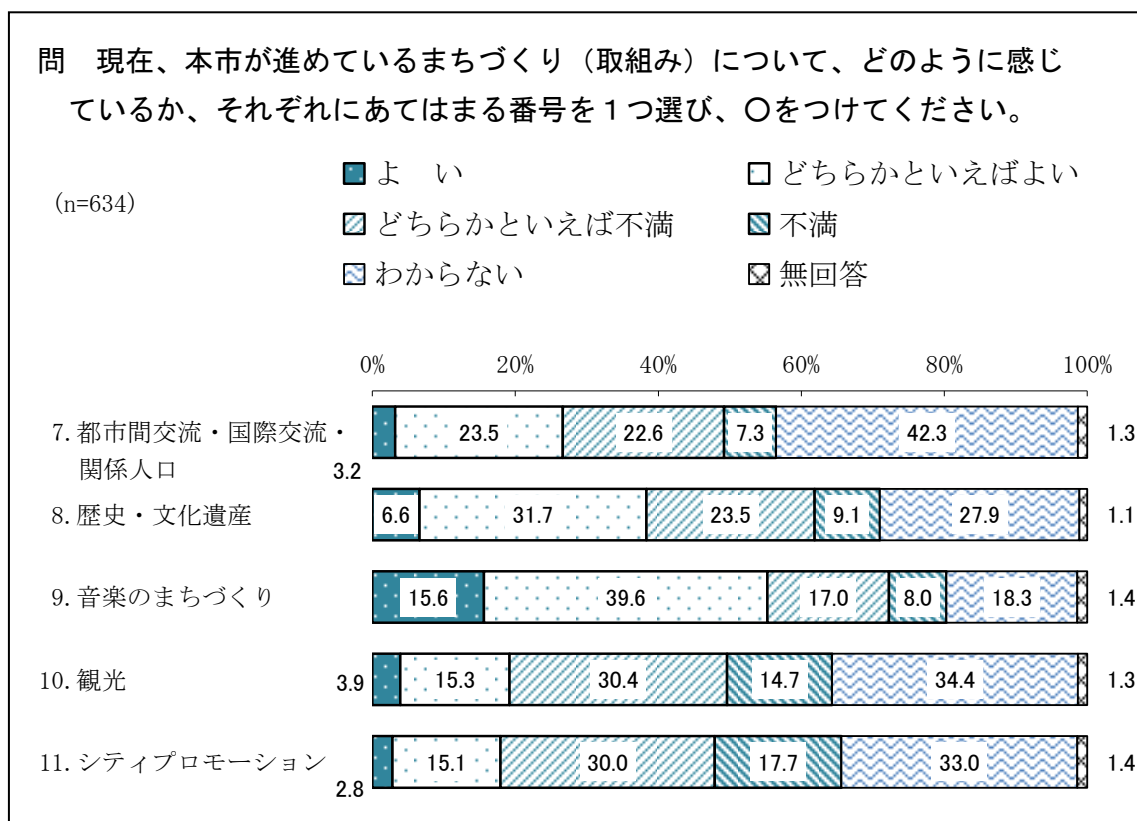
表 3-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男性	女性
1位	産業創出・ 企業誘致 (67.4点)	特産品 ブランド化 (71.4点)
2位	地域産業 (66.0点)	産業創出・ 企業誘致 (70.2点)
3位	起業支援 (64.8点)	地域産業 (69.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品 ブランド化 (82.9点)	特産品 ブランド化 (77.8点)	特産品 ブランド化 (69.6点)	特産品 ブランド化 (66.3点)	特産品 ブランド化 (67.7点)	地域産業 (67.2点)	産業創出・ 企業誘致 (73.3点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (76.0点)	産業創出・ 企業誘致 (76.7点)	地域産業 (69.0点)	産業創出・ 企業誘致 (64.5点)	起業支援 (67.2点)	特産品 ブランド化 (67.0点)	地域産業 (70.7点)
3位	農林業 (75.0点)	地域産業 (75.0点)	産業創出・ 企業誘致 (68.8点)	地域産業 (62.5点)	地域産業 (66.4点)	産業創出・ 企業誘致 (66.8点)	起業支援 (70.3点)

② 交流・観光の未来

(交流・文化・観光・シティプロモーション分野) への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（55.2%）となり、次点の『8. 歴史・文化遺産』（38.3%）を大きく上回っています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（47.7%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-3 参照）。

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が 75.6 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（61.0 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-8 参照）。

図3-3 交流・観光の未来への満足度〈平均得点〉（全体）

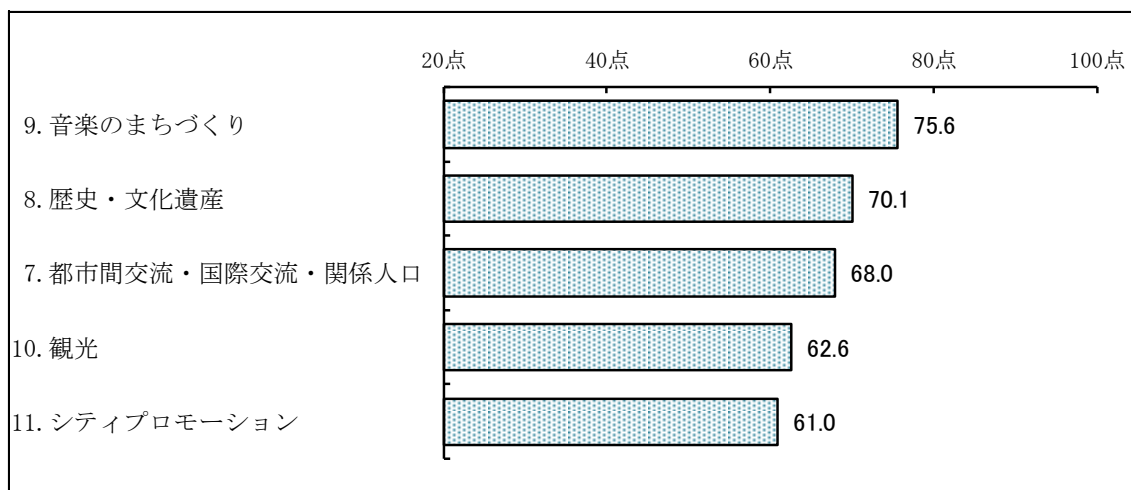


表3-8 交流・観光の未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	音楽のまちづくり (73.2点)	音楽のまちづくり (77.2点)
2位	歴史・文化遺産 (67.9点)	歴史・文化遺産 (72.1点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (66.0点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (70.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	音楽のまちづくり (85.7点)	音楽のまちづくり (81.3点)	音楽のまちづくり (70.0点)	音楽のまちづくり (75.6点)	音楽のまちづくり (73.9点)	音楽のまちづくり (74.4点)	音楽のまちづくり (78.5点)
2位	歴史・文化遺産 (83.3点)	歴史・文化遺産 (77.0点)	歴史・文化遺産 (67.4点)	歴史・文化遺産 (71.9点)	歴史・文化遺産 (66.8点)	歴史・文化遺産 (69.3点)	歴史・文化遺産 (70.8点)
3位	観光 (71.4点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (75.4点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (63.5点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (67.8点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (65.2点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.4点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.9点)

図3-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

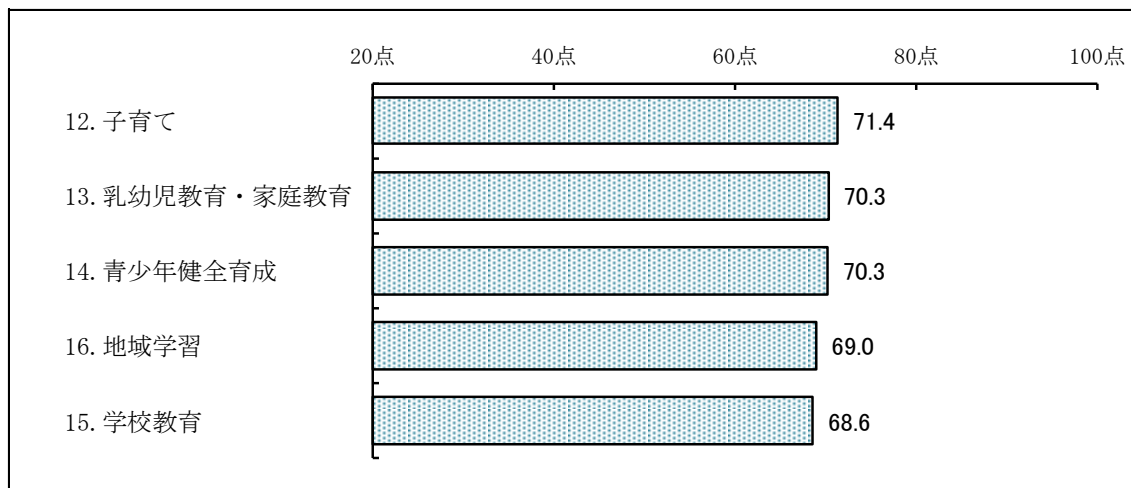


表3-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	青少年健全育成 (67.5点)	子育て (74.0点)
2位	子育て (67.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.6点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (67.0点)	青少年健全育成 (72.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	青少年健全育成 (77.1点)	学校教育 (80.0点)	地域学習 (70.3点)	地域学習 (71.8点)	子育て (70.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (69.3点)	子育て (75.2点)
2位	地域学習 (76.7点)	子育て (79.3点)	子育て (69.8点)	青少年健全育成 (70.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (68.2点)	子育て (68.8点)	乳幼児教育・家庭教育 (73.5点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (76.0点)	青少年健全育成 (78.6点)	青少年健全育成 (69.3点)	学校教育 (69.2点)	青少年健全育成 (67.8点)	青少年健全育成 (68.7点)	青少年健全育成 (71.3点)

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（63.9%）でした。以下、『25. 健康づくり』（49.6%）、『20. スポーツ・文化・芸術』（48.0%）、『19. 広聴広報』（41.8%）が4割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（39.7%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図3-5参照）。

平均得点をみると、『26. 医療』が76.3点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（66.0点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表3-10参照）。

図3-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

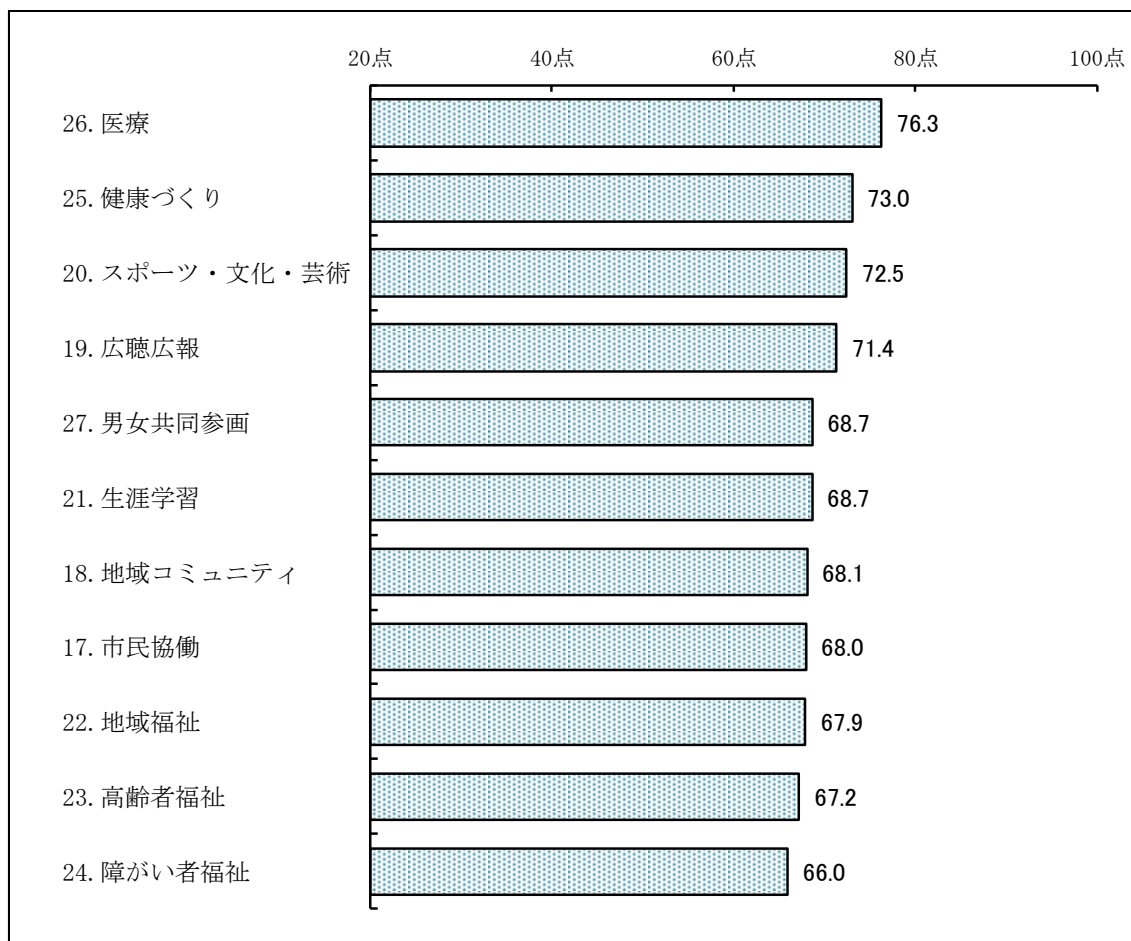


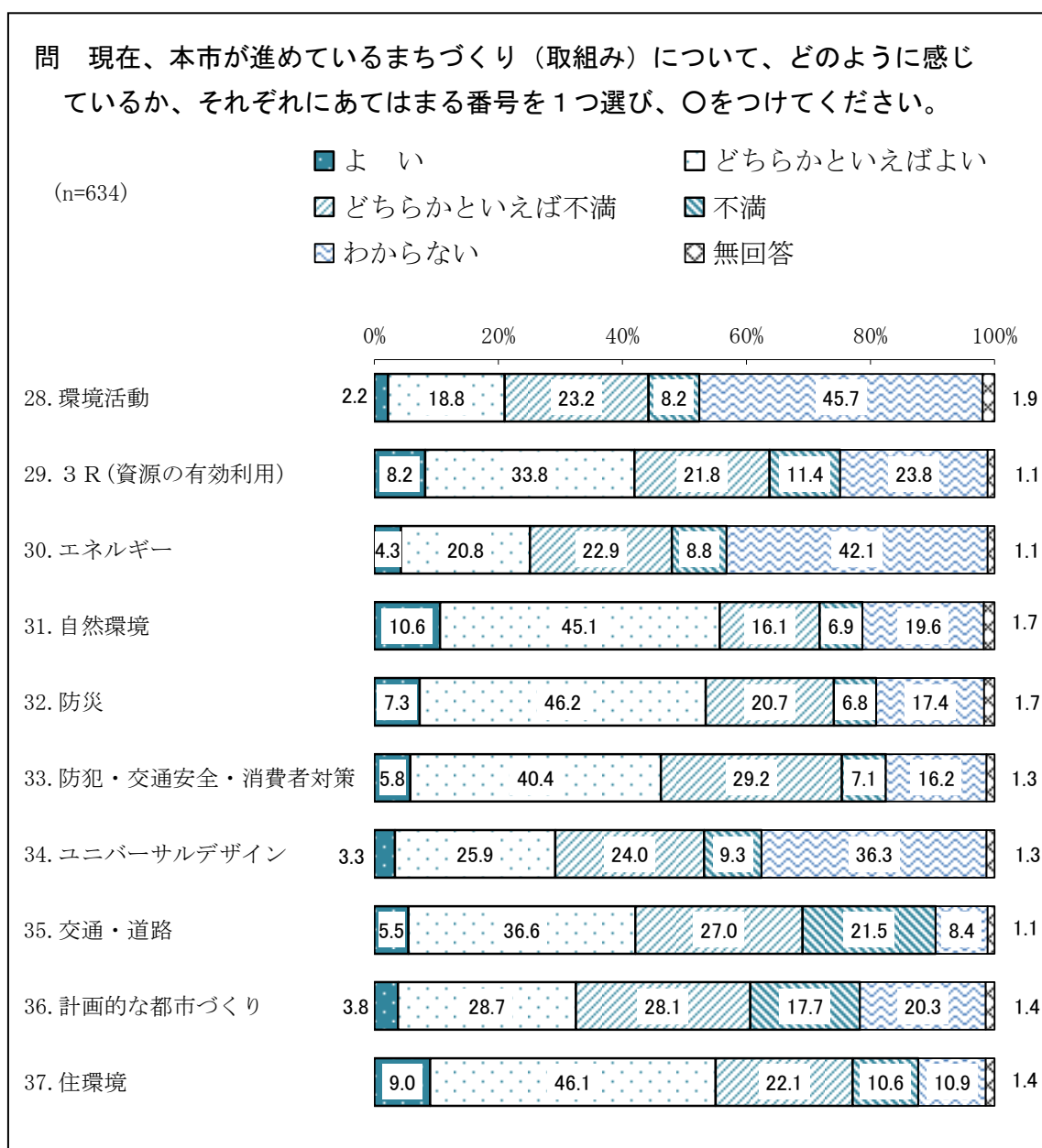
表3-10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	医療 (75.8点)	医療 (76.6点)
2位	健康づくり (71.0点)	健康づくり (74.1点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (70.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	スポーツ・ 文化・芸術	医療 (81.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (77.8点)	医療 (74.1点)	医療 (74.6点)	医療 (75.2点)	医療 (79.4点)
2位	広聴広報	スポーツ・ 文化・芸術 (81.3点)	医療 (73.1点)	健康づくり (72.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (70.5点)	スポーツ・ 文化・芸術 (71.6点)	健康づくり (75.8点)
3位	健康づくり (80.0点)	男女共同 参画 (78.6点)	男女共同 参画 (72.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (71.6点)	広聴広報 (70.1点)	健康づくり (70.7点)	広聴広報 (72.4点)

⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足(「よい」と「どちらかといえばよい」の合計)」の割合が最も高いのは『31. 自然環境』(55.7%)となり、次いで『37. 住環境』(55.1%)と『32. 防災』(53.5%)も同じく5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満(「不満」と「どちらかといえば不満」の合計)」の割合が最も高いのは『35. 交通・道路』(48.5%)となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-6 参照）。

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 75.1 点で最も高くなっています。
一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（64.8 点）でした。
なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-11 参照）。

図 3-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

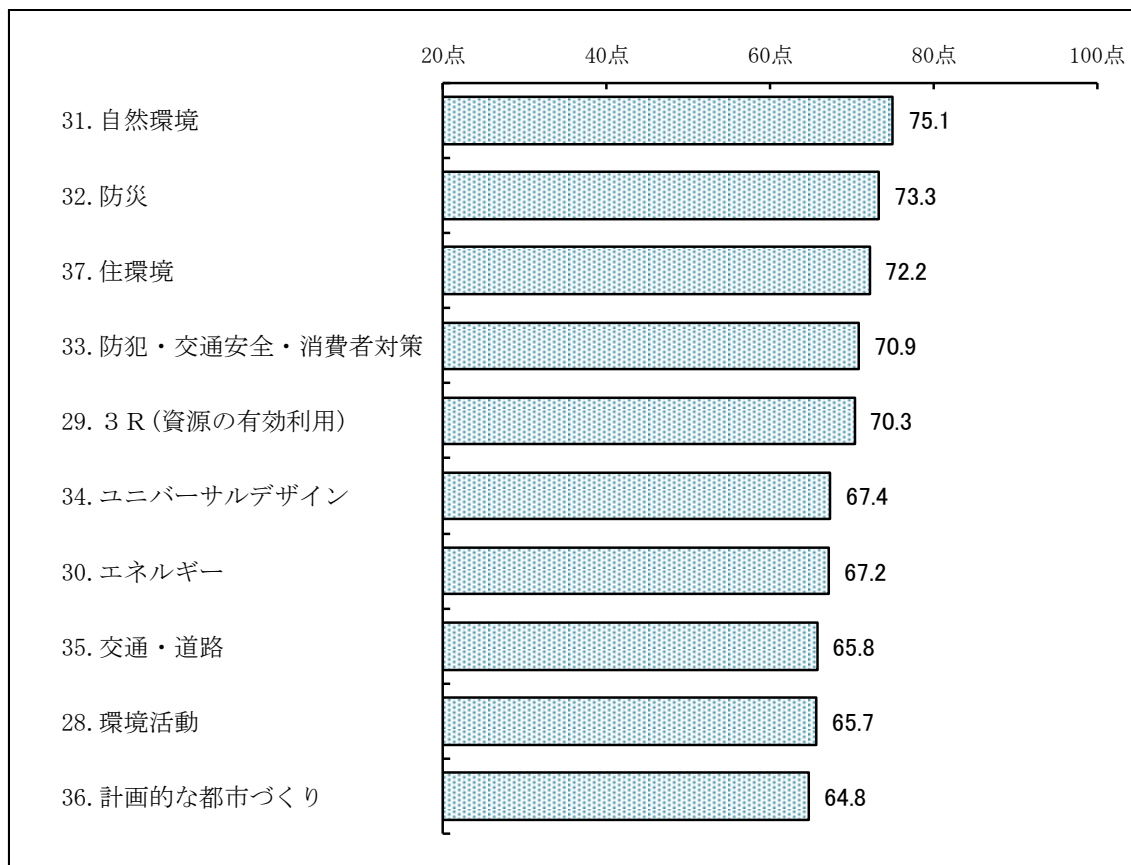


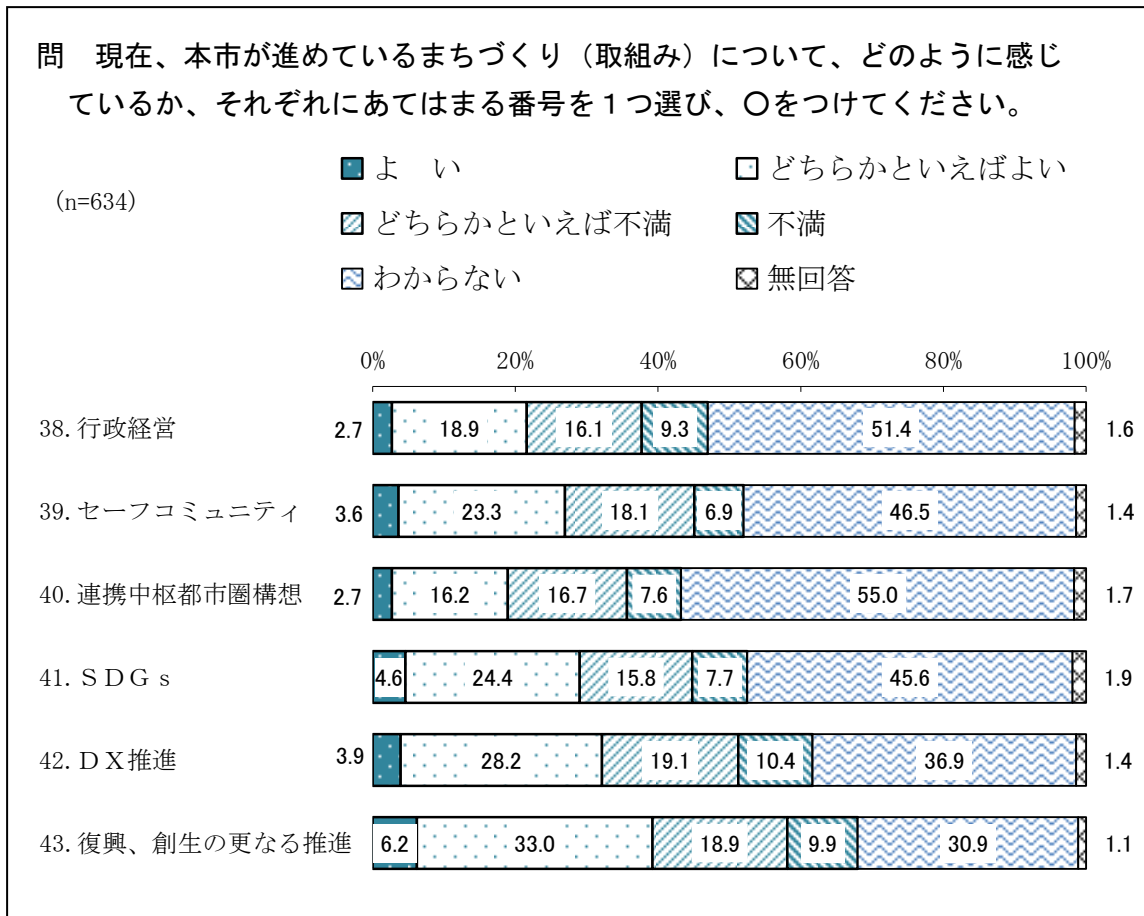
表3-11 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	自然環境 (73.1点)	自然環境 (76.8点)
2位	防災 (72.3点)	防災 (74.2点)
3位	住環境 (71.4点)	住環境 (73.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	自然環境 (90.0点)	自然環境 (82.2点)	自然環境 (76.0点)	自然環境 (77.6点)	自然環境 (74.2点)	防災 (72.1点)	防災 (76.2点)
2位	防災 (83.3点)	エネルギー (80.0点)	防災 (71.9点)	防災 (73.6点)	住環境 (72.8点)	自然環境 (71.7点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (75.8点)
3位	ユニバーサル デザイン (80.0点)	住環境 (79.4点)	エネルギー (70.9点)	住環境 (73.1点)	防災 (69.0点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (69.7点)	自然環境 (74.6点)

⑥基盤的取組

(行政経営、セーフコミュニティ、連携中枢都市圏、SDGs、DX推進、復興・創生の更なる推進) への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『復興、創生の更なる推進』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『43. 復興、創生の更なる推進』（39.2%）、次いで「DX推進」（32.1%）となっています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『42. DX推進』（29.5%）となっており、50代以下で得点が高い反面、60代以上で低い結果となっています。

また、『43. 復興、創生の更なる推進』と『42. DX推進』以外の項目において「わからない」の割合が4割以上と高くなっています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図3-8参照）。

平均得点をみると、『43. 復興、創生の更なる推進』が 70.4 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『38. 行政経営』（66.4 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました（表 3-12 参照）。

図 3-8 基盤的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

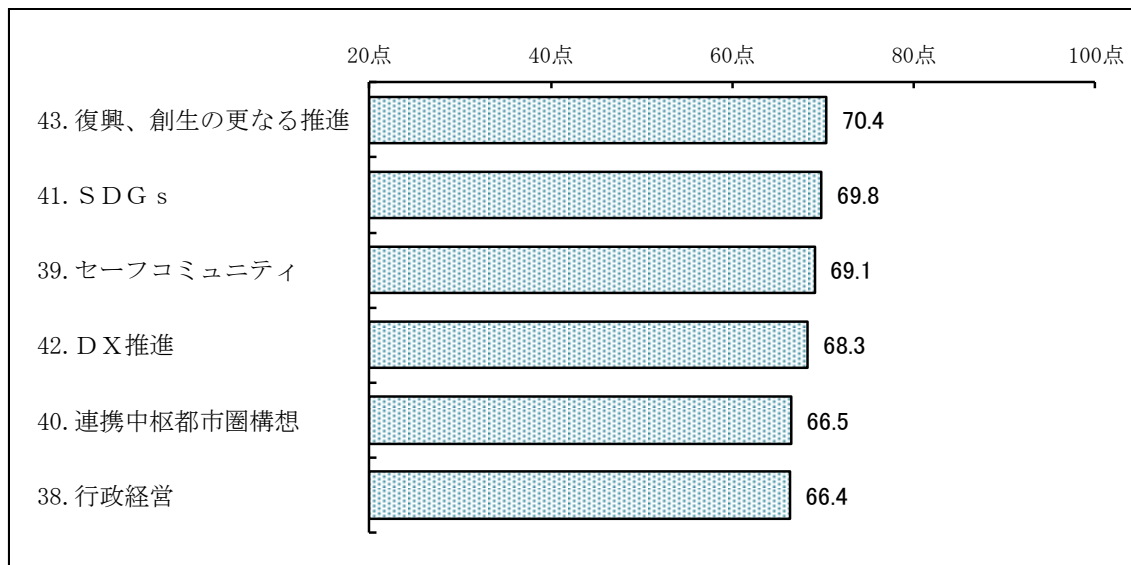


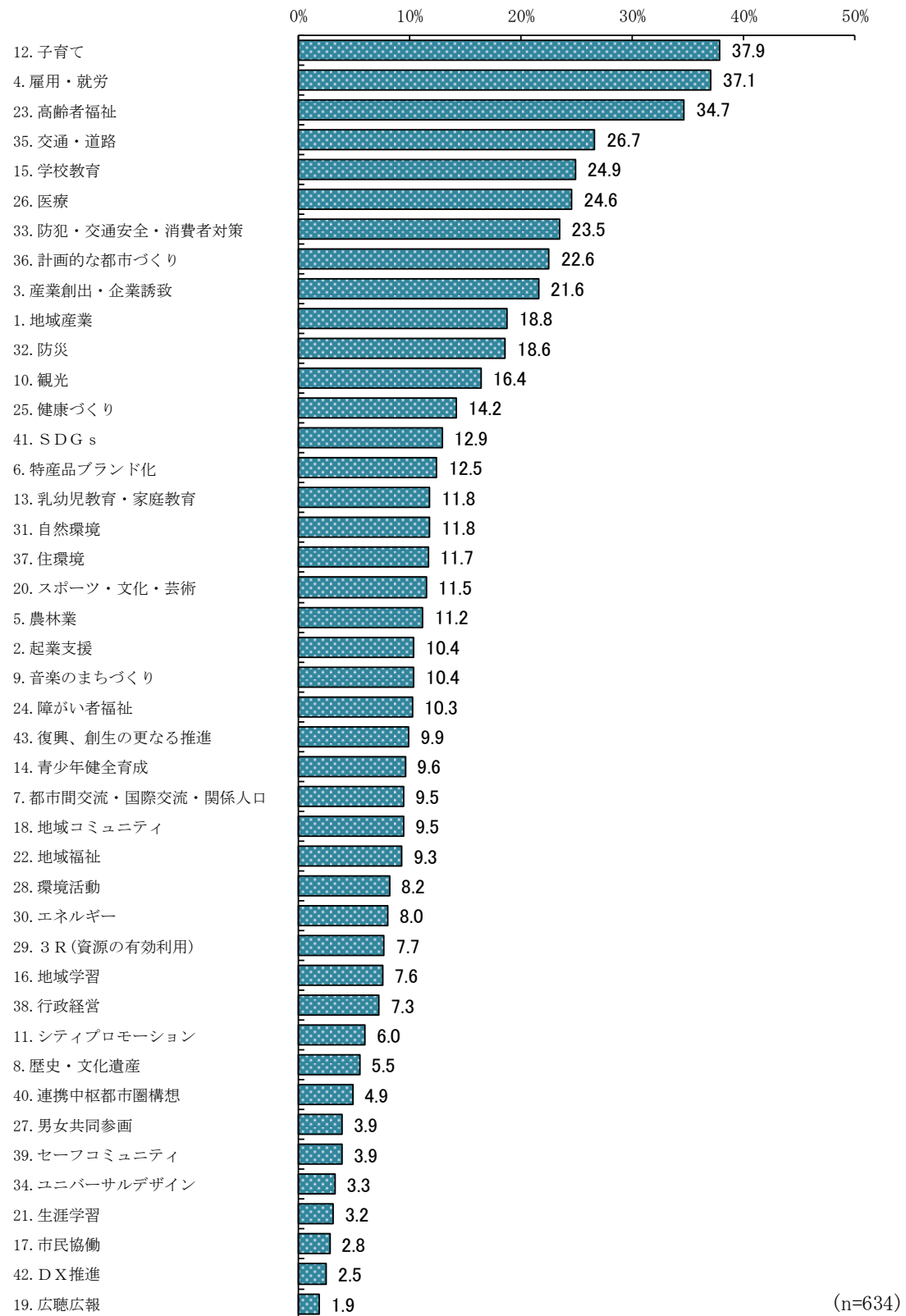
表 3-12 基盤的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男性	女性
1位	復興、創生の更なる推進 (69.7点)	SDGs (72.4点)
2位	セーフコミュニティ (67.7点)	復興、創生の更なる推進 (71.1点)
3位	SDGs (67.2点)	セーフコミュニティ (70.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	SDGs (88.0点)	復興、創生の更なる推進 (80.8点)	復興、創生の更なる推進 (71.4点)	復興、創生の更なる推進 (72.9点)	復興、創生の更なる推進 (69.6点)	セーフコミュニティ (69.3点)	SDGs (69.7点)
2位	連携中枢都市圏構想 (85.0点)	DX推進 (80.0点)	DX推進 (69.8点)	DX推進 (72.1点)	DX推進 (67.6点)	復興、創生の更なる推進 (69.1点)	行政経営 (68.1点)
3位	セーフコミュニティ (84.0点)	セーフコミュニティ (78.4点)	SDGs (69.3点)	SDGs (70.8点)	SDGs (66.6点)	SDGs (68.7点)	セーフコミュニティ (67.5点)

(5) 分野別属性別重要度結果 (複数回答)

問 現在、本市が進めているまちづくり (取組み) について、特に重要と思われるものの番号を1~43から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



【全体結果】

『12. 子育て』(37.9%)の割合が最も高くなっています。以下、『4. 雇用・就労』(37.1%)、『23. 高齢者福祉』(34.7%)、『35. 交通・道路』(26.7%)、『15. 学校教育』(24.9%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました(表3-13参照)。

表3-13 これからの取組みについての重要度<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	雇用・就労 (38.7点)	子育て (40.6点)
2位	高齢者福祉 (36.0点)	雇用・就労 (36.7点)
3位	子育て (34.4点)	高齢者福祉 (34.0点)
4位	交通・道路 (28.1点)	学校教育 (27.6点)
5位	産業創出・ 企業誘致 (25.3点)	医療 (25.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	雇用・就労 (55.6点)	子育て (52.8点)	子育て (71.9点)	雇用・就労 子育て (51.4点)	雇用・就労 (40.0点)	高齢者福祉 (41.3点)	高齢者福祉 (45.0点)
2位	医療 計画的な 都市づくり (44.4点)	雇用・就労 (47.2点)	雇用・就労 学校教育 (40.4点)		高齢者福祉 (33.0点)	雇用・就労 (36.0点)	交通・道路 (26.2点)
3位		観光 (36.1点)		学校教育 (30.5点)	子育て (32.2点)	子育て (35.3点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (25.5点)
4位	産業創出・ 企業誘致 子育て (33.3点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (30.6点)	医療 (35.1点)	産業創出・ 企業誘致 (28.6点)	医療 (28.7点)	交通・道路 (29.3点)	学校教育 (23.5点)
5位		特産品 ブランド化 高齢者福祉 計画的な 都市づくり (22.2点)	乳幼児教育・ 家庭教育 交通・道路 (29.8点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 交通・道路 (27.6点)	地域産業 (27.0点)	医療 (22.0点)	産業創出・ 企業誘致 雇用・就労 (21.5点)